

編集にあたって

本臨時増刊号では、整形外科手術部位感染（SSI）の予防と治療をテーマにさせていただきました。まず、SSI 対策については、著者の先生方に可能な限り最新のエビデンスに基づいたレビューをお願いしました。また、治療に関しては抗菌薬と外科的アプローチの両面から最新の知見をまとめていただきました。各領域のエキスパートの皆様の英知を結集し、大変素晴らしい内容にまとめたのではないかと思います。

整形外科の SSI 予防は日々進化しています。絶えず新たな研究が行われ、様々な考え方が紹介されるようになりました。しかし、日々の忙しい診療の中でこれらの研究をまとめ、科学的に吟味することはとても難しいです。そのため、本増刊号のようにそれぞれの専門家がわかりやすく現状をまとめ、しかも日本語で紹介したレビューは非常に役に立つのではないかと思います。また、現時点でのエビデンスを整理し、それぞれの領域の限界を知ることが research gap の理解につながります。今後われわれがどのような方向に研究を進めていくべきかの道標になるのではないかと考えています。

SSI 治療はさらに難しいテーマです。SSI の発生割合は低く、病態も非常に複雑であり、質の高い研究が組みにくいという背景があります。ですが、何もせず感染した患者を放置することはできません。われわれ整形外科医は、少しでも機能障害を残さないように、可能な限りスマートに、そして効果的な治療法を常を選択しなければなりません。

感染症治療の基本は抗菌薬です。抗菌薬の正しい知識なく、感染した患者を治療することはできません。しかし、整形外科関連学会で抗菌薬の使用法について系統立てた話を聞ける機会は激減しています。そこで本増刊号では、整形外科感染症診療で頻用する抗菌薬を厳選し、その特徴を初学者にもわかりやすく解説していただくようお願いしました。また、抗菌薬の組織移行性とその副作用についても正しく理解する必要があります。これらは、国内外のガイドライン作成（『JAID/JSC 感染症治療ガイド 2023』、The International Consensus Meeting on Infection 2025 など）に関わられた先生方を中心に執筆をお願いしました。外科的アプローチもまた重要です。様々な治療法がありますが、本増刊号では比較的治療法が確立しつつある骨折関連感染症（FRI）と股関節の人工関節周囲感染（PJI）に絞り、国内最前線でご活躍中の先生方に初学者でもわかりやすいようにその考え方、治療方針をおまとめいただきました。

本増刊号が、より質の高い SSI 予防と治療の実践、そして新たなアイデアの創出に少しでもつながれば幸いです。

2025 年 4 月

医療法人社団悠愛会 理事長、中野島整形外科 院長
一般社団法人 Ortho Support コンサルタント

山田 浩司